



藤野幸信 Yukinobu Fujino

フラワーショップ「フルールトレモロ」経営(2006年4月開店)
住所:広島市南区段原1-5-7 TEL:082-261-3970
(1997年3月 理学研究科生物科学専攻修了)

贈る人の想いがつまっている花束。
これからもオリジナルにこだわり続けたい。

—広大生からお花屋さん、フローリストを目指そうと思っ
たきっかけは?

学生時代に花屋でアルバイトをしていたのが、一つのき
っかけですね。そこで、フローリストという職業を知ったんです。
生物を専攻していたので、植物も含め、生き物には興味があ
りましたし、小さいころから絵を描いたり、物をつくることが
大好きだったから。アルバイト先の店長の紹介で、一度は
大手の花屋に就職をしたんですが、大きな組織の中では、
なかなか自分の思うようにできなくてね。自分のオリジナル
の作品を作りたいと思って、このお店を
オープンしたんです。

—仕事で大変だなと思うことは?

花屋って、はたから見たら華やかだけど、
裏舞台は八百屋さんや魚屋さんと同じ。
花の新鮮さを保つために、冬場は暖房



お花選びのワンポイント アドバイス

いい花の見分け方は葉っぱと茎。
花を見るお客さんが多いけど、下
葉とか葉の切り口を見てください。
ここが腐っているのは、まずだめ
ですね。あと、葉っぱに元気がな
いのも×。

禁止。朝7時には、仕入れのために市場へ行きます。大手
の花屋で働いていたころは、外見だけであこがれて入って
きて、すぐにやめていく人も多かったですね。独立してからは、
忙しいシーズンには店で寝泊まりすることなどもあって大変
なんですが、配達先で「きれいなお花ね〜」ってお客さんに
感動してもらうと、この仕事をやっていてよかったなって思
います。ほめてもらえることが一番うれしいですね。



—学生時代にやっていて役に立ったことはありますか?

学生時代は、毎日実験や研究の日々でした。その影響
もあってか、今でも花の長持ち剤や咲かせ方の実験をし
たり…普通の花屋さんとはそこまでしないですね(笑)。植物
の仕組みについては詳しいので、お客さんに聞かれても、
ある程度のうんちくが話せます。あと、「面白い花の組み合
わせをするね」とよく言われますね。青と黄色、ピンクとオレ
ンジ…一見合わないような色でも、組み合わせたら結構さ
れいに見えたりするんです。そのへんの発想は、絵に興味
を持っていたおかげかな。

—フローリストとしてのポリシーはなんですか?

「お客さん一人ひとりの想いやイメージをくみとりながら、
一つ一つの花を大切に作っていく」これがポリシーです。だ
から、作り置きはせずに、オーダーを受けてから花を仕入れて
作っていく感じ。常にお客さんにとって、身近な花屋でいた
いですね。うちでは、花でぎっしりの花束は作ってないです。
グリーンをうまく入れながら、自然な感じに近づけるのがトレ
モロスタイル。「花が少ないじゃないか」と言われる方もいま
すが、そのときにはきちんと説明をさせてもらっています。そ
ういうオリジナリティーは大事にしていきたいですね。



社会の第一線で活躍している先輩たちの職場を訪ねて、突撃インタビュー。
仕事のことから学生時代に身に付けておくべきことはまたまたブラザーの語りで、
私たち学生の素朴な疑問・質問にお答えいただきました。

羅針盤

OB&OG紹介

—現在の仕事内容は?

ホテルに就職したきっかけを教えてください。

広報のセクションにいますので、メディア対応が主な仕事
です。プレスリリースを作成したり、広告を打ったり。広告は、
私がデザインします。そのほかには、季刊誌のディレクショ
ンやギャラリーの展示なども担当しています。



このホテルで働くようになったのは、ふってわいたような
話なんです。大学時代、フランスへ1年間留学をしたときに、
現地の建築に強い興味を持ちました。その後、広大を卒
業し、パリにある建築大学へ入学。3年間建築を学び、現
地の建築事務所に勤務しました。建築だけにとどまらない
デザイン全般の仕事がしたいと思って日本に帰国し、尊敬
する内田繁さん*の事務所へ就職を希望した際、「私のプロ
デュースしたホテルで働いてみないか」って。話をいただ
いた当初は、あまりに突然すぎて返事に困りました。でも、
内田さんが企画や設計をしたホテルだし、デザインの仕事
もできるということだったので決めました。

—不安はなかったのですか?

学生生活が長かったので、社会人になれるか不安でし
たが、なんてことはなかったです。常に「やりたいことを仕事
にしたい」と思って行動しているので、「仕事だからやらな
いといけない」という気持ちでは働いていません。学生の
考えとあまり差がないように聞こえるかもしれませんが、お
金をもらっている以上、仕事はきちんとしないといけない。
責任が、学生と社会人の一番大きな違いだと思います。

今は広報の責任者として、ホテルに何が必要か、このデ
ザインはブランディングに合っているのかなど、考えなが
ら働いています。毎日いろいろな人に会い、自分のセンスで
さまざまな仕事をさせてもらえて、すごく楽しいです。

—留学中のことを聞かせてください。

いろいろな場所に行って、多くの人に会うようにしていま
したね。パリを選んだのは正解でした。芸術も好きだったので、毎日美術館に通ったり、とにかく勉強する材料には困り
ませんでしたから。休日には足を伸ばして、ドイツやイタリア、
スペインなどの建築も見回りしました。

—これからの目標は?

好きなことを仕事にしたいと、学生の頃からずっと思い行
動してきました。日本とフランスで勉強し、たくさんの人に会
い、さまざまな経験を積んだことがすべて今につながってい
ると実感しています。これからも、その信念で、行きたい方
向へ向かって行こうと思います。

*内田繁-日本を代表するインテリアデザイナー。京都ホテルのロビーや神戸ファ
ッション美術館、門司港ホテルなど、作品多数。



田中真弓 Mayumi Tanaka

オリエンタルホテル広島 PR&セールスプロモーション
(2003年3月 総合科学部卒業)

—今の仕事がすごく楽しい。
それは「今やりたいこと」をしているから。

取材を終えて



時間の流れがゆったりしていて、とてもリラックスできるお店でした。「花を通して人に喜びや幸せを伝えるお花屋さん。そしてオリ
ジナルなものを創造するフローリストという仕事。喜んでくれる人の笑顔があるから頑張れる」と目を輝かせて語ってくれました。
本当にやりたいことは何か、自分を一番生かせる仕事は…改めて自分自身を振り返り、将来について考えるきっかけになりました。

取材・記事 / 医学部4年 松永 純子



本当に楽しい取材でした。その理由は、田中さんの経歴と話の面白さ。好きなことをやり切った人の魅力でしょうか、どんどん話
に引き込まれてしまいました。ほくも先輩のように、人と違っていいから、後悔をしないよう興味のあることを精一杯やってみ
たいと思います。

取材・記事 / 工学部3年 金山 浩輝